

⤵ぐちゅ……⤵

（興奮に勃起する音）

リリウ

「あっ……えへ、へへ……んふ♪

ぴくって、貴方のおちんちん……跳ねて答えてくれました♪

ふふ♪ まだ、懺悔したい罪、おありなんですねっ♪」

リリウ

「私の体に、罪の告白……されたいんですよ、ね？

私が、私の体を使って頂いて、貴方の懺悔を受け入れたいと思っているのと同じくらい。

貴方も私の体に、罪を吐き出したいと思っていらっしやるんですね？

んっ、あはあ♪」

リリウ

「……はい。であれば、勿論、喜んで♪

どうか私に……私の体に、貴方の罪を教えて下さい。

そして……」

リリウ

「許されて……くださいっ♪ はあー……♪」

⤵ぎし……⤵

（興奮した男の足踏み）

リリウ

「ふふ♪ 喜んで頂いていますか？ えへ……嬉しいです♪

ですが、折角新しい罪の告白をして頂くというのであれば。

前の懺悔の名残が残ったままというのも、少し勿体ないですよ……ね？」

⤵くちゅ……⤵

（白濁混じりにのめるイチモツを触る音）

⤵しゅり……⤵

（リリウがしゃがむ音）

リリウ

「んっ……やっぱりおちんちんにとろとろに、絡んじゃってます。

さっき手で擦ったのと、貴方も罪をいっぱい吐き出してくれたからでしょうか？

ローションも殆ど流れちゃって、貴方の出してくれた精液だけになっちゃってますね♪」

リリウ

「では……懺悔の前の清めの儀式、ということ。
貴方の罪の名残を口で……舌で舐めとり、清めさせて頂きます、ね♪
はあ……むっ♪」

リリウ

「んっ、ちゅ、じゅる……れろ、れろ……ちゅっ、ちゅうっ♪
んんう……罪、深い……味が、します♪ んちゅ、ちゅう……れろ、れろ、れろおーっ♪
んちゅうー……れろ、れろ、ちゅう、れろおー……れろ、ちゅっ、ちゅっ♪
んふう♪」

リリウ

「んちゅうっ、ふふ……べつとり、絡ndます♪
ちよつと、舌を絡めて舐めたくらいでは……れろ、ちゅう……れろおっ♪
んっ……取れそうに、ありません♪ はむ、ちゅうっ♪」

リリウ

「はむっ、れろ……ちゅっ、ちゅっ♪
こんなに……れろおっ、ちゅっ……べつとりと♪
取れなくなるぐらい……懺悔に、集中して……れろおっ♪ んっ……くださったん、です……ね？
ちゅっ、れろおー……ちゅっ、ちゅっ♪」

リリウ

「はあー……♪
こんな、味なんですね。貴方の罪の味、男性の……精液というのは。
んっ、れろおー……ちゅっ、んんっ♪
初めて、口にしましたが……はむっ、れろ、れろ……れろおーっ♪」

リリウ

「ちゅるっ……んっ、ぷはっ♪
はあー……あは♪ なんだか、胸がドキドキする……味がします♪
聖水ローションを使ったせいなのか、少しだけしょっぱいような味もして。
でも、舌ですくって口に入れると……ねとつとした感触が舌からとろりと口の中に広がっていつて。
んっ……れろおー……ちゅっ、じゅる♪」

リリウ

「ん、ふう♪
口の中で、唾液と絡むと薄まるのに……ソコにあるって存在感はずっと残る♪
熱く、絡まって、口の中で主張して……この味がどんどん広がっていくみたいで。
んっ……れろ、れろ、ちゅっ……ちゅっ、れろおー、ちゅっ、ちゅっ、じゅるっ♪」

リリウ

「ちゆるーっ……んんうっ♪

ふうー……んんっ♪ はあー♪

とても、罪深い……味がします♪ すごく、救ってさしあげたくなる……そんな味です♪

んふ♪ ちゅっ♪」

リリウ

「ん、れろおー……ぴちゃぴちゃ♪

はあー……♪

男性器である以上、汚れている場所でもある……という知識はあるのですが。

この、味……♪ おちんちんにこびりついた精液の、罪深い味が舌に触れると……ちゆるっ♪

んっふう♪ 私に罪の告白をするために、貴方が我慢して下さった結果の味なんだと思えて。

筋（すじ）ばった裏の所も、ぷっくり……ふるふる震えてるおちんちんの先も♪

とろとろ絡んで匂い立つ精液も合わせて……愛おしい（いとおしい）もののように思えてしまつて、ずっと……

舐めていたくなっちゃいます♪

んっ、れろおー……れろ、れろおー……んんっ♪」

リリウ

「はあー……ふうー……♪

……くわえます、ね？

んっ……はあー、んっ……むっ♪」

リリウ

「んっ、じゆる、ちゅうー……れちゅうっ、んじゆる、ちゅうっ……れろ、ずちゅ……ちゆる、ずっ、ずちゅ、

ちゅうっ♪

んーふ♪ んっ、んちゅ、ちゅうー……じゆる、じゆる、ちゅうっ♪

ちゅずる、ちゅず、ずるうー……ちゅうううっつ、ずずっ、ちゅぶっ、ちゅう、ちゅう、ちゅううううっつ♪

♪」

リリウ

「ん、ちゆるっ！ ……っぷはっ！

はあー……あー……はあー……あは、んんっ♪

くちゅ、くちゅ……んふ♪」

へしゅり……♪

（近づく衣擦れの音）

リリウ

「んっ、くちゅ……ぐちゅ……んっ、ご……つくんっ♪

ぷっ……はあー♪ えへ、綺麗に、なりました……ね♪」

リリウ

「はぁー……あはっ♪

周りだけじゃなくて、おちんちんの中に残ってた精液も、ちゅうーって吸わせて頂きましたから、すっきりされたんじゃないですか？

……ふふ♪」

リリウ

「って、あう……せっかく綺麗にしたのに、よく考えたら手にさつき貴方のおちんちに触れた時の精液が残ってました。

うー……、折角舐めたのにこだけちよっと残っちゃってますね。

最初に、此方も舐めておけばよかったです。むう、失敗しました。んっ……ぢゆるっ、ちゅぷ、ちろっ」

リリウ

「ちゅぷ……はぁー。

んっ、これで手も綺麗になりました♪

ほら、舐めさせて頂いたおちんちんと同じ位綺麗になりましたよ！ ……なんちゃって♪

あう……ごめんなさい。ちよっと調子に乗っちゃいました。

あの、大丈夫ですかね？ 貴方のおちんちんを綺麗にするのは一番力を入れたので！

中に残ってた精液もちゅうって吸って、スッキリ綺麗にしたつもりですから！

……心配、しないで下さいね？」

＆ぎし……＆

（男の頷く音）

リリウ

「ん……あは♪ 貴方に、ちゃんとスッキリしてるって言って貰えると、安心できますね……えへへ♪

ふふ♪ おちんちんを綺麗にした事自体は懺悔ではありませんが、貴方に喜んで頂けていたようならば、何よりです♪

ふふ……ちよっと、嬉しくなっちゃいますね♪」

リリウ

「さて、では……貴方のモノも綺麗になって。

舐めてる間にまた大きくなって貰えた所ですし、次の懺悔に……移りましょうか？

次は、どんな罪に覚えが御座いますか？」

＆しゅり……＆

（男の返事で動く衣擦れの音）

リリウ

「……なるほど。

先程までの色欲や憤怒、傲慢とはまた違ったものなりますね。

……身体や精神の疲れから、或いは理由が分からずとも、兎に角やる気が出ずにやるべき事を後回しにしてしま

う事がある、ですか。

新しい事を始めたいのに中々出来なかったり、そういう事にも当てはまる形でしょうか？」

リリウ

「そうですね……。恥ずかしながら、私からも一つ告白すると……私自身もそうした事がありますし。

そのような時は自分が気付かずとも、何かしら疲れが溜まっている事も多いように思います。なので、ゆっくり休まれるという選択自体は決して間違っていないと思っています。

けれど……そうですね。あえてソレを罪とするなら……怠惰の罪、となるでしょうか？」

リリウ

「うーん、この場合は……。

怠惰……怠惰の罪、という事であれば。何かしら自ら動く経験を積む、というような形が良いのかもしれませんがね？

であれば……」

リリウ

「んっ、こほんっ！

先ほど、お伝えさせて頂いた通り。

貴方が罪の告白をし、懺悔として一生懸命我慢をして下さったのもあって……私も、その……はい。

貴方の新たな告白で、懺悔で、私自身の体をも使って貰う事で。もっと深く、体の奥から貴方が許されているのだと感じて頂きたいと思っています」

リリウ

「なので……少し、失礼致します、ね？ んっ……」

へしゆる……しゆる……すとん々

（シスター服を脱ぐ音）

リリウ

「ふう……。どう、でしょう？

おかしくは、ありませんか？

服を脱いで……下着の、衣装だけに……なってみましたが。

その、修道服を脱いだからといって、私の信仰心が変わりがあるつもりはないのですが。

貴方から見て、その……懺悔するかいが減ってしまっているので無ければいいのですが……あう」

リリウ

「んっ……あは♪

気にならないのなら良かったです♪

であればやはりこの姿で、イタしましょう♪ この姿なら、丁度胸や……女の子の場所。

私の……おまんこ、も……じっくり触って頂けますから」

へくちゅ……ㇿ

（リリウが自分から秘所を広げる音）

リリウ

「はい……ここです。」

貴方にも、既に触って頂いた……この場所です。

ここに、貴方のおちんちんを迎えさせて頂き、貴方の好きに動いてもらう。

つまり、貴方が自発的に動く事自体を、怠惰の罪への懺悔とする形で……如何でしょう？」

リリウ

「あっ！ ふふ♪

貴方のおちんちん、ぴくんって跳ねました♪

気に入って頂けたってことですか？ ふふ♪」

リリウ

「んっ……。服を脱ぎ、胸も、おまんこも全部見られてしまうこの姿をしつかり見られてしまうのは、私も少しドキドキしていたのですが。」

……えへ♪ そのように喜んで頂けているなら、やって正解でしたね♪ ふふ♪」

リリウ

「どうでしょう……そちらからも、きちんと分かりますか？

こうして、自分で広げてみても……その、実際に男性を迎えた事がないので、間違っていないか良く分からないものでして。」

変な所は……ありませんか？

シスター達からは、私のはピンク色が強くて子供っぽい、などとかかわれる事があるので……おかしく、ないというのですが。」

良ければ、よく見て頂いても……いいでしょうか？」

リリウ

「んっ……。貴方の視線が、おまんこに当たってるの……分かり、ますっ。」

じ、実はたまに……本当にたまにですが、自分で……少し、触れてしまう事があるんです。

そのせいで、変になってないといいのですが……んんっ♪」

リリウ

「あ、あの……な、何か……言って、頂けると！

その、し……視線は強く感じるのですが、あう……無言でいられると、少し怖いと言いますか。

へ、変なのかもと不安になってしまう所があるので……あうっ。

も、もっと良く見ないと分からないでしょうか？ でしたらその……お尻も向けてしまうのが失礼でなければ、

今からそちらにおまんこを向けますので。」

もっとよく見て頂いて構いませんから、その何か……仰って（おっしやって）頂けると」

へしゆる……

(体勢を変えお尻を向ける音)

へつぶ……くちゅっ

(向けられた場所に触れる音)

リリウ

「んっ、ふあっ!? ひゃっ……わわ!

あ、あの……どうされたんですか!? お、おまんこを向けた途端触られて!?
い……いきなり触られると吃驚してしまうので、一言声をかけて頂けると嬉しいのですが!」

へくちゅ、ぐちゅ……

(熱心に秘所を触る音)

リリウ

「きゃっ、はう……んんっ

や、もお。すごい、熱心に……触られるんです、ね

あう……んっ 変、ではない……という事で、いいのでしょうか?」

へしゆる……

(肯定の頷く音)

リリウ

「んっ ふふ……思わず、弄りたくなるほどのモノと、気に入って頂けたのなら、良かった……です、んっ
あっ……う、んんっ んっ、ふ……あんっ

で、でも……そんな、いっぱい弄らないで……下さい、ね?

その、元々……貴方のを弄っていて、濡れてしまっていたのもあって。

もう液が……溢れて(あふれて)、しまっているの……こんな風に、んっ

弄られていると、気持ちよくなってしまいそうで……んんうっ」

リリウ

「あは でもとりあえず、私のおまんこが……貴方のお気に召して、懺悔をしたくなる場所と思って頂けてい
ると分かったのは良かったです、んっ

もう、弄られて、液もこんなに……垂れて、潤って(うるおって)……しまっ、いますし
そろそろ、怠惰の……罪を、克服するために。

勤勉さを、学ぶ……懺悔を、いたしましょう」

リリウ

「私の、おまんこに、んんうっ

貴方の、おちんちん、をっ

挿れて(いれて)、動いて……懺悔して下さいます、か?」

へくちゅ……ぐっ！

（挿入の音）

リリウ

「ふわっ！？ あっ、んんっ、くっ……ううんんっ！

はあー……あーっ……う、うん……ああ……。

あり、がとう……ごさいますっ。

挿れて、くださいました……ね♪」

へくちゅ……ずっ

（ピストン音）

リリウ

「んんう、そう……ですっ！

その、感じ……でっ。どうぞ……私の奥まで、ぐっと、力を込めて……んあっ！？」

リリウ

「んっ、うつ、あ……んくうつ！

私、の中……掻き分けて……はい、って……くっ、んんうつ。

ふう……はあ……ん、え？ 血……ですか？

ああ、話に聞いてましたが……やっぱり、出ちゃうモノなんです、ね」

リリウ

「あう……お伝え、していた通り。私は、男女の交わり……はふうっ。懺悔は、初めて、ですから……んんうつ。初めて、だと……こう、なるとは……話に聞いていましたので。どうか……お気になさらず、このまま続けてください……んっ」

へくちゅ……

（ピストンの止まる音）

リリウ

「あっ、え……どう、されたんですか？

動いて、下さっていいんです……よ？

……止められ、ちやうんですか？」

リリウ

「あう。血を……気にされたんです、か？

えっと、確かに少し痛みはありますが……ですが、私としては止めて（やめて）頂きたくないと、言いますか……その。

出来れば……このまま、続けて欲しいんですが」

リリウ

「懺悔として、続けて頂きたいもあるんですが……あう。

……その、変に思わないで頂けますか？

実は……その。

貴方に、おちんちんを……私の、おまんこに、挿れて頂いてから……痛くは、あるんですけど。でもそれよりも、心地よさが……あると言いますか」

リリウ

「貴方が突いて、腰を引いて。

それに合わせて、ぎゅ……ぐいって体の中が動いて、腰とおまんこが、一緒に動く感覚がして。

貴方が与えてくれる体の中を押し広げられる感覚と、それと一緒に走る痛みが」

リリウ

「貴方が、一生懸命に懺悔をしてっていると……罪を、私にぶつけてくれている証（あかし）のように思えて。とても……とても、心地よく感じてしまつて……すごく、嬉しいんですっ♪」

リリウ

「ですからどうか、遠慮なさらず、このままっ♪

突いて、引いて……おちんちん、おまんこに擦りつけて、くださいっ♪

お願いします。私に、貴方の罪を……もっと、感じさせて？

私を使って、懺悔……して、下さいっ♪」

へずっ……ぐりゅ！！！！

（本格的なピストンが始まる音、以下背景でうつすら）

リリウ

「んんあ、んんんうううっっ♪

そ、そう……ですっ♪ この、感じ……貴方のを、体の中から感じられるこの感覚っ♪

これが私は、好き……なんですっ♪ んんうっ♪」

リリウ

「あり、がとう……ございますっ♪

こんな、風に……遠慮なく、出し、入れ……して頂けるの、うれ……し♪

んんうあっ♪

あたまあ、とても、ふわふわしてきま……すっ♪

痛いのも、なんだか……どんだん、刺激に紛れて、分からなくなつて、いつて……あうんっ♪

体、があっ♪ 貴方のおちんちんの形を、感じるためのモノになつて、いくみたいで……んんうっ♪

それが、うれし……。胸の、奥……すごく、ポカポカ、しま……すっ♪ あっ、んっ、んっ、んんうっ♪」

へぐっ！ ぐちゅ、ぐちゅ、ぐちゅんっ！！！！

（背中から押し掛かるような体勢になり、強くなるピストン）

リリウ

「んあつ、ひつ、あつ、んつ、んうっ、んっ♪

や、あ……♪ そんな、体を押し付けられちゃ……ぐりぐり、おちんちんもつと入って、入ってきちゃあ♪ 私の中、貴方のおちんちんで埋まっちゃい、ます……あああっ♪」

リリウ

「あつ、あつ、あっ♪

そ、そうです……このままあ、この感じでえ、あああっ♪

どうぞ、もつと、ぶつけ……腰、ぶつけて、くださ……んんううっ♪

私のおまんこの感覚を感じて……くださっ、私を感じて……くださっ、い……んあああっ♪

わたし、もお……貴方の、おちんちん♪ 貴方の……罪をお、精をお♪ いっぱい、感じます……からあっ♪」

リリウ

「いっぱい、いっぱい……んんううっ♪

おまんこ、でえ♪ 貴方が破って、くれたあっ♪ 女の子、場所、でえっ♪

貴方の懺悔え、感じて……受け、とめ……ます、からあっ♪

んあ、あつ、あー……んんううっ、あつ、あつ、あんっ、あつ、んんううっ♪」

リリウ

「ひうっ、ひんっ、あつ、ひやうっ、んんううっ、ああっ♪

かんじま、す……貴方の、おちんちん♪

ぐちゅ、ぐりって……いっぱい、私の中を膨らませて、ぐりって歪ませて……抉ってえ♪

私を、求めてくれるの、濡らしてくれるの、わかりま……すっ♪」

リリウ

「うれしっ……うれしい、ですっ♪

私、こういう事……見習いのうちはあ、懺悔の相手をするのは……早いつてずっと、言われてました、からっ！

こうして、ちゃんと出来て……貴方の、罪をぶつけて貰えてっ！ 求めて、貰えてるのっ、すごく分かってえ♪

貴方の、懺悔……ちゃんと、出来てるって思えてえっ♪ 私、すごく……すごく、嬉しい、ですっ♪ あっ、あ

あっ、あああっ♪」

リリウ

「うんっ、うんっ、や……あつ、ああ、んんううっ♪

だめ、だめだめ……私、貴方を感じ過ぎちゃ……どんだん、胸の中疼いて、たまらなくなっちゃあ♪

やあ……やあ、やあやあやあっ♪ こんな、こんなに……貴方の罪い、おちんちん……感じてしまうと、私……

私っ♪」

リリウ

「あたまあ、まっしろになっちゃあ……ひうっ、ああっ♪

貴方ので、頭……真っ白になっちゃいま……す、う……んっ、んうっ、んっ、んっ♪

だめ、だめだめ……も、もう、私、頭ふわふわしちやってなにも……わからなっ、わからな……いいっ♪

ひやつ、あつ、あつ、あつ、んっ……んんんううっ♪」

リリウ

「んっ、あ……やあっ♪　だ、め……んっ！

あっ、あああああああああああああああっつつっ♪」

へどくっ、びゅっ、びゆるううっ！≫

（射精音）

リリウ

「あー……はあー……あつ、はあー……ああ……ふう、はあー……ああ♪」

リリウ

「あなたの、つみい……私の中、溜まって……ます、ああ……♪

はあー……あつ、んっ……ふうー……♪

すごく、いやらしくて……罪深い、あったかい、熱が……どくどく言っ、入っ、きてるの、わかります……

あー♪

んっ……あ、はあ……っ♪

アソコ、が……あつくて、あつくて……私、この感覚の中に……溶けていっちゃいそう……です♪

は、ふ……う♪」

リリウ

「はー……ふー……んんう♪

懺悔を、一生懸命して頂くと。私も、こんなに熱を感じるものなんですネ。

あは……ふふ♪

私、今まで……懺悔を、する方（かた）だけが……熱を覚えるんだと、思っていました。

受ける側も、こんなに……甘く、痺れてしまうなんて……想像も、してませんでした♪

ふうー、はあー……ふふ♪」

リリウ

「えへへ……実は、途中から……少しだけあった痛みも、何処かに吹き飛んでしまっていて。

貴方の罪を、懺悔を……私の中に受け止めているんだって思いだけが、熱と一緒にどんどん体中に広がっている。

貴方の……おちんちんが、おまんこの中を広げてくれるたびに、強くなって……それが嬉しくて♪

……えへ♪」

へしゅる……≫

（体の位置を変えて顔を合わせる音）

リリウ

「そうして、胸の中がポカポカして、痺れて、甘く切なくなっ……。

その感覚があったから、貴方の懺悔をちゃんと受け止められたんだと思います……えへへ♪

私……それがすごく、すっごく♪ 嬉しかったですよ？
ふふ♪ んっ……ちゅっ♪ 「」